

プロセス評価の指標

◆ 事業の実施状況

喫煙者における事業の周知度、事業の実施人数や参加者数、参加率など

◆ 指導者の感想

指導の手ごたえや喫煙者の反応、プログラムの問題点や改良点

◆ 喫煙者の感想

事業に対する満足度、有用度、わかりやすさ、良かった点、問題点や改良点など

© 厚生労働科学・中村班 2002

プロセス評価の指標

- 1. 事業の実施状況
 - ・禁煙サポート事業が予定通り効果的に実施されているかどうかを評価する。
 - ・評価の指標としては、ターゲットとなる喫煙者における事業の周知度、事業の実施人数や参加者数、参加率などがある。
- 2. 指導者の感想
 - ・事業に携わった指導者の感想をアンケートやインタビューなどで把握する。
 - ・指導の手ごたえ、喫煙者の反応、プログラムに対する問題点や改良点などを把握する。
- 3. 喫煙者の感想
 - ・事業に参加した喫煙者の感想をアンケートやインタビューなどで把握する。
 - ・事業に対する満足度、有用度、わかりやすさ、良かった点、問題点や改良点などについての意見を把握する。

結果評価の指標

◆ 禁煙率

■ 結果評価の中心的指標である。
■ 禁煙サポート実施直後だけでなく、6ヵ月～1年後の時点での評価も必要

◆ 喫煙ステージ

■ 禁煙できなかった喫煙者も含めて、禁煙サポート事業の効果を全体として評価する場合に用いる。
■ 喫煙ステージは無関心期、関心期、準備期のようにカテゴリー分類で尋ねる方法以外に、0～10までの数値を用いて把握する方法もある。

◆ その他の指標

■ 禁煙の試行状況、喫煙本数の変化、呼気一酸化炭素濃度や尿のニコチンレベル変化などを指標として用いることができる。

© 厚生労働科学・中村班 2002

結果評価の指標

- 1. 禁煙率
 - ・禁煙率は結果評価の最も中心的な指標である。
 - ・喫煙は再開しやすいので、禁煙サポート実施直後の禁煙率だけでなく、サポート終了後6ヵ月～1年経過した時点での禁煙率を調べるのがよい。
 - ・より客観的な評価を行うためには、喫煙者の自己申告に加えて、呼気一酸化炭素濃度測定や尿のニコチン検査を実施して禁煙を確認するとよい。
 - ・喫煙者のステージによって禁煙率が異なるので、複数のステージを対象にする場合は、ステージ別に禁煙率を調べるのがよい。
- 2. 喫煙ステージ
 - ・禁煙できなかった喫煙者も含めて、禁煙サポートの実施前後で喫煙ステージの変化を調べ、禁煙サポート事業の全体としての効果を調べる。
 - ・喫煙ステージは無関心期、関心期、準備期のようにカテゴリー分類で尋ねる方法以外に、禁煙に対する準備性(関心度)の程度を0から10までの数値で尋ねる方法もある。後の方がステージの小さな変化を把握できる。
 - ・喫煙ステージのほか、禁煙の動機(重要性)や自信、負担の各項目について0から10までの数値で評価する方法もある。
- 3. その他の指標
 - ・そのほか、禁煙の試行状況(禁煙しようと思ったかどうか、一旦禁煙したかどうか、など)や、喫煙本数の変化、タ/コ検査の測定値の変化などを指標として評価する方法もある。